

高田農業高等学校 第1学年 シラバス

科目名を選択すると、該当科目のシラバスを閲覧できます。

国語（現代の国語）

公民（公共）

数学（数学Ⅰ）

理科（科学と人間生活）

英語（英語コミュニケーションⅠ）

保健体育（体育）

保健体育（保健）

芸術（音楽Ⅰ）

芸術（美術Ⅰ）

芸術（書道Ⅰ）

農業（総合実習）

農業（農業と環境）

農業（農業と情報）

教科(科目)	国語（現代の国語）	単位数	3単位	学年(コース)	1 学年（農業科）
使用教科書	第一学習社『高等学校 現代の国語』				
副教材等	数研出版『プレミアムカラー国語便覧』 浜島書店『常用漢字の1・2トライ』 尚文出版『国語必携パーフェクト演習』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する能力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探究し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) ことばが持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、

- ①基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得と、文章を的確に理解し自分の考え方を確立させることを目指します。
- ②更にそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。
- ③自身の考えを的確に表現するための文章能力を養います。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めようとしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上のことを踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上のことを踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」で、評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	話して伝える	4 「A 話すこと・聞くこと」	「話し方の工夫」 「待遇表現」	・話し言葉と書き言葉の違いを理解する。 ・相手・目的・場面に応じた言葉遣いを理解し、実際に発言してみる。 ・相手により伝わりやすい表現方法を理解し、発表しあう。 ・敬語表現を意識した言葉遣いを理解する。 ・敬語表現が選択される視点を理解し、課題に沿ってつかいこなす。	4	ワークシート 発表の様子 活動の様子
	理解編1	6 「B 書くこと」	「生き物として生きる」	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・ものの見方や捉え方について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・常用漢字を活用する。	6	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
5	理解編1	5 「B 書くこと」	『『本当の自分』幻想』	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を理解する。 ・自己と他者について述べた文章を読み、自分の考えを論述する。 ・常用漢字を活用する。 ・筆者の主張を自分自身や、周囲の人に引き寄せて考える。	5	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
	定期テスト				1	
	話して伝える	4 「A 話すこと・聞くこと」	「論理的な表現」 「情報の探索と選択」	・説得力を意識した表現の仕方について理解する。 ・進んで主張と根拠と理由付けの関係性を理解し、学習課題に沿って話し合う。 ・必要な情報を探し、情報の信頼性や妥当性の吟味の仕方を理解する。 ・情報の妥当性を具体的に検討し、学習課題に沿って情報を探そうとしている。	4	授業態度 活動の様子 発表・報告 ワークシート 定期考査
6	理解編2	6 「C 読むこと」	「水の東西」	・東西の対比の関係をいながら、内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を理解する。 ・自分の考えが的確に伝わるように工夫しながら、比較の文章を読んだ自分の考えを論述する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。	6	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
	論理分析	6 「C 読むこと」	『『間』の感覚』	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を活かして筆者の主張をまとめる。	6	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
	理解編3	4 「B 書くこと」	「無彩の色」	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用し、語彙を豊かにする。 ・本文で例示された「茶の湯」と「千利休」について調べたことをまとめ、他の生徒と共有する。	4	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
7	定期テスト				1	
	話して伝える	6 「A 話すこと・聞くこと」	「スピーチで自分を伝える」①	・自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解する。 ・材料を集め、表現や話し方を工夫し、今までの学習を活かし、効果的に話す。 ・評価シートを活用して評価する。	6	授業態度 発表・報告 ワークシート
	理解編4	5 「C 読むこと」	「現代の『世論操作』」	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握し、内容を解釈する。 ・情報やメディアの現状について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用し、語彙を豊かにする。	5	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査

	8 9	理解編4	5 「B書くこと」	「鏡」 「文学のしるべ」	・比喩や言い換えなどの修辞を理解する。 ・人の内面に潜む恐怖とは何かを読み解くなどして、自分の意見や考えを論述する。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用し、語彙を豊かにする。	5	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
		話して伝える	6 「A話すこと・聞くこと」	「スピーチで自分を伝える」②	・自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解する。 ・材料を集め、表現や話し方を工夫し、今までの学習を活かし、効果的に話す。 ・評価シートを活用して評価する。	6	授業態度 発表・報告 ワークシート
		理解編4	4 「B書くこと」	「フェアな競争」	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・現代の社会や政治について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用し、語彙を豊かにする。	4	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
		定期テスト				1	
	10	書いて伝える	2 「B書くこと」	「実用的な手紙の書き方」	・実用的な手紙として、依頼文と案内文の書き方を理解し、相手に適切に情報を伝える文章を書く。 ・書いた手紙文を批評し合い、批評を踏まえて文章の構成・展開や表現を工夫する。	2	授業態度 発表・報告 手紙文の提出
		論理分析	4 「C読むこと」	『「私作り」とプライバシー」	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・主張と論拠、個別と一般化、情報と情報の関係を理解し、論理の展開を分析する。	4	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
		理解編5	4 「B書くこと」	「不均等な時間」	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用し、語彙を豊かにする。 ・既習の評論と粘り強く読み比べ、持続可能な社会に関する意見文を書く。	3	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
	11	書いて伝える	6 「A話すこと・聞くこと」	「地域の魅力を紹介する」	・必要な情報や資料を収集・整理し、わかりやすい紹介文を書くために活用する方法を理解する。 ・説明や表現の仕方を工夫して、わかりやすい紹介文を書く。 ・紹介文を批評し合い、批評を踏まえて文章の構成・展開や表現を工夫する。	6	授業態度 発表・報告 紹介文の提出
		理解編5	6 「C読むこと」	「ロビンソンの人間と自然」	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用し、語彙を豊かにする。 ・自然に対する人間の態度について述べた文章を読み、自分自身の経験も踏まえながら、自分の意見や考えを論述する。	6	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
		定期テスト				1	
	12	理解編6	6 「B書くこと」	「法律の改正に関わる文章を読み比べる」 「日本の労働時間に関わる資料を読み比べる」	・改正前後の法律文を読み比べて必要な情報を読み取り、複数の文章を関連づけながら、理解したことをまとめる。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方を学び、活用する。 ・複数の文章から読み取った情報を粘り強く吟味し、表現の仕方を工夫してまとめる。	4	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査

	話して伝える	6 「A話すこと・聞くこと」	「理想の修学旅行をプレゼンする」	- 効果的なスライドの作り方を理解する。 - 今までの学習を活かして相手・目的・場面を考慮し、プレゼンテーションを行う。 - 話し方を工夫し、今までの学習を活かして効果的に話す。 - 資料や機器を用い、相手の理解を得られる工夫をしようとしている。 - プレゼンテーションを、評価の観点に沿って評価する。	6	授業態度 活動の様子 発表・報告 ワークシート
1	書いて伝える	4 「B書くこと」	「自校の生徒の生活実態を調査する」	- 目的に沿った調査の方法を理解し、実践する。 - 報告文の書き方を理解し、実践し、評価する。 - 目的に応じてテーマを決め、集めた情報の妥当性や信頼性を粘り強く吟味する。 - 書いた報告文を進んで批評し合い、批評を踏まえて情報の扱いや表現の仕方を工夫する。	3	授業態度 発表・報告 調査とまとめ 報告文の提出 ワークシートの提出
	論理分析	4 「B書くこと」	「デザインの本意」	- 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 - 主張と論拠、個別と一般化、情報と情報の関係を理解し、論理の展開を分析する。 - 論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を活かして要旨をまとめる。	3	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
2 3	書いて伝える	2 「B書くこと」	「社会に対する意見文を書く」	- 自分の経験の中から意見を導き出す。 - 意見文の書き方を理解し、実践し、評価する。 - 目的に応じてテーマを決め、集めた情報の妥当性や信頼性を粘り強く吟味する。 - 書いた報告文を進んで批評し合い、批評を踏まえて論理の展開や表現の仕方を工夫する。	2	授業態度 発表・報告 調査とまとめ 意見文の提出 ワークシートの提出
	定期テスト				1	

計 105 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 時間	B「書くこと」 時間	C「読むこと」 時間

7 課題・提出物等

- ・単元ごとに、振り返りのワークシートなどを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。(副教材など)
- ・長期休業中の課題は定期テストの範囲に含まれます。

8 担当者からの一言

「現代の国語」は、実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目です。実社会に必要な国語の知識や技能を身につけたり、言葉による見方考え方を働かせ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像する力を伸ばしたり、言葉が持つ価値への認識を深めたりすることなどを目指します。「現代の国語」で学ぶことは、皆さんの生涯にわたる基礎となります。授業では、基礎・基本を大切にするとともに、実際に話したり書いたりする学習活動を通して、応用力を高めていきます。楽しみながら、力を伸ばしていきましょう！（担当： 新井 久美子）

教科(科目)	公民（公共）	単位数	3単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	実教出版「公共」				
副教材等	第一学習社「クローズアップ 公共」 実教出版「公共 マイノート」				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探究し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

現代の社会に対する関心を高め、また、目まぐるしく変化する社会情勢・国際情勢の中で、的確な判断力を身につけることができるように、身近な社会的事象をとりあげ、考察を深めさせていく。そのためのテーマ学習を多くとりいれていく。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
国内の政治・経済や国際情勢、また、地球環境問題などの今日的課題について、さまざまなメディアを活用して資料を収集し、基本的な知識を身につけ問題点を理解している。	現代社会の諸事象について、収集した資料をもとに、客観的に分析し、表現できる。	現代社会の諸事象について、関心を高め、意欲的に追求し、将来を担う社会の一員としての資質を身につけようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポート提出 ・演習プリントへの取り組みなどから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポート提出 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・レポート提出 ・授業中の発言や意見文発表などへの取り組み などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6 7	1 民主国家 における基本 原理 2 日本国憲 法の基本的性 格		実教出版 「公共」	・オリエンテーション ・民主政治が成立する歴史的経過と民主政治の基本原則について学ぶ ・日本国憲法成立の経過と基本的性格・内容について学ぶ	20 20	・定期考査 ・課題レポート ・授業への取り組み
9 ～ 12	3 日本の政治機構と政治参加 4 政党政治と選挙制度		実教出版 「公共」	・国会・内閣・裁判所など日本の政治機構の特色と今日的な課題について学ぶとともに、政党政治や選挙制度と世論の動向などについて学ぶ。	20 15	・定期考査 ・課題レポート ・授業への取り組み
12 ～ 3	5 現代の政治社会 6 国際政治の動向と課題		実教出版 「公共」	・経済活動の仕組みと世界の経済体制について学ぶ。 ・国際政治の動向と今日的課題について概観し、日本の果たすべき役割を考える。	15 15	・定期考査 ・課題レポート ・授業への取り組み

計105時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・練習問題プリントの提出
- ・テーマ学習等課題プリントの提出

8 担当者からの一言

現代の政治・経済について基礎的な知識を身につけるとともに、少しでも興味・関心を高めるために、国内・国外を問わず問題となった事柄について、新聞・資料集なども活用しながら学習していきます。年に数回、レポートを課しますので、積極的に取り組み、必ず提出するようにしてください。

(担当：岡田 雅章)

教科(科目)	数学 (数学 I)	単位数	3 単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	最新 数学 I (数研出版)				
副教材等	Study-Up ノート 数学 I (数研出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探索し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにします。また、式を多面的に見たり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようにします。二次関数とそのグラフについて理解し、二次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。単元ごとに課題学習を行い、身近な課題について主体的に学習し、数学のよさを認識します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数と式、2次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を身につけている。	数学のよさを認識し活用しようとする、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身につけている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・小テスト ・自習課題、 ・課題テスト、定期テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組（問題演習など） ・自習課題、ノート等の提出物 ・長期休業中の課題の提出状況 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組（授業態度など） ・自習課題、ノート等の提出物、 ・長期休業中の課題の提出状況、 ・振り返りシートの記述の分析・ などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 ～ 9	1章 数と式	数と式	整式 整式の加法・減法・乗法 因数分解	3 7 8	ワークシート 授業態度 定期テスト
		実数	実数 根号を含む式の計算	4 5	ワークシート
		1次不等式	不等式・不等式の性質 1次不等式の解法 連立不等式 絶対値を含む方程式・不等式	2 4 4 3	ワークブック 授業態度 定期テスト
	2章 集合と命題	集合と部分集合 命題と集合	集合 命題 証明法	6 6 5	ワークシート ワークブック 授業態度 定期テスト
		課題学習	方程式の解の性質	2	
	3章 2次関数	2次関数とそのグラフ	関数 2次関数	2 12	ワークシート ワークブック
		2次関数の最大・最小	2次関数の最大・最小 2次関数の決定	8 5	授業態度 定期テスト
		2次方程式・2次不等式	2次方程式の解 2次関数のグラフとx軸の共有点 2次不等式	5 4 8	ワークシート ワークブック 授業態度
		課題学習	課題学習①または②	2	定期テスト

計 105時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・ワークシート
- ・ワークブック
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

わからないときはすぐに解答を見て写すのではなく、わかる問題まで戻り考えてください。つまりいたらそのままにせず、周りの人と一緒に考えてみましょう。同じような問題を繰り返し解き、基礎の定着をはかることで、必ず自分で解けるようになります。主体的に取り組む、課題の提出期限を守ること。

(担当：高橋哲也、新井真紀、酒井利博)

教科(科目)	理科（科学と人間生活）	単位数	3単位	学年(コース)	1学年(農業科)
使用教科書	実教出版「科学と人間生活」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する能力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探索し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組み地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

3 指導の重点

- ・ 本学が農業高校であり、専門性に繋がるコースがあることも踏まえ、
- ①自然の基礎的な原理・法則を理解する能力を養うとともに、農業との関わりについて理解を深める。
- ②身近な物質、科学技術の進歩と人間及び農業の関係にも触れる。
- ③自然が日常生活と深く関わっていることを理解することに重点をおく。
- ④高校卒業後の進路先が多岐にわたっていることより、個々の進路目標に対応する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身につけている。	人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより、総合的に判断し、それを表現することができる。	自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとしている。 自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・小テスト・定期テストの分析 ・授業中の発言、観察・実験への取り組みの観察 ・実験レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・小テスト・定期テストの分析 ・授業中の発言、観察・実験への取り組みの観察 ・実験レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、観察・実験への取り組みの観察 ・実験レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時数	時数
4	1章 科学と技術の発展	1.科学と技術の始まり 2.海 ―とくに深海を科学の眼で見よう― 3.土 ―農業を通して考える―	現代の科学技術文明が科学によって支えられ発展してきたことを理解させる。 海洋の研究・調査の意義や役割を理解させる。農業には、生物や気象などさまざまな自然現象が関連しており、科学技術を利用することで農業が発展してきたことを理解させる。自然界は未知のことが多く、科学技術によって地球環境に影響を及ぼすこともあり、研究が進められていることに気づかせる。	9	プリント提出 授業態度 実験レポート提出 定期テスト
5 6	1節 材料とその再利用 2章 物質の科学	1.生活の中のさまざまな物質 2. 金属 3. プラスチック 4. セラミック	身の回りの天然の物質や人工の物質がどのような成り立ちでできているか確認させる。物質の最小単位である原子は約百種しかないが、組合せにより非常に多くの物質が生まれ、性質も決定されることに気付かせる。原子の構造、化学結合について理解させ、それらが物質の性質と関係していることに気付かせる。	20	プリント提出 授業態度 実験レポート提出 定期テスト
7	1節 ヒトの生命現象 3章 生命の科学	1. 私たちの生活環境と眼 2. ヒトの生命活動と健康の維持 3. ヒトの生命現象と DNA	ヒトの眼の構造や、ホルモンの働きを理解させる。からだの防御の仕組み、抗体による免疫の仕組み、予防接種について理解させる。DNA の構造を理解させる。DNA の転写・翻訳によってつくられたタンパク質がヒトの生命現象を支えていることを理解させる。	12	プリント提出 授業態度 実験レポート提出 定期テスト
9	2節 微生物とその利用	1. いろいろな微生物 2. 微生物の利用 3. 生態系での微生物	微生物発見の歴史について学習させる。発酵食品中の微生物の観察を通し、発酵や腐敗が私たちの生活に深く関わっていることを理解させる。微生物が医薬品を作ることに役立っていること、微生物の働きによる下水処理の仕組みについても理解させる。	12	プリント提出 授業態度
10	1節 熱の性質とその利用 4章 光や熱の科学	1. 熱 2. 熱の発生 3. エネルギーの変換と利用	温度は物に関わる量であることを物体をつくる分子・原子の熱運動と結びつけて理解させる。熱平衡・物質の熱容量・比熱、熱量の保存について理解させる。身の回りの具体的な事実から熱現象は不可逆的であることを理解させる。	12	実験レポート提出 定期テスト
11	2節 光の性質とその利用	1. 光 2. 電磁波の利用	光の直進性、光の反射の法則、屈折の法則を理解させる。光を使っているいろいろな物を見ることができることと、光は電磁波の一種であることから、電磁波を使って様々な物を見ることができることを理解させる。波の特性として回折と干渉を理解させる。	12	プリント提出 授業態度 実験レポート提出 定期テスト
12	1節 太陽と地球 5章 宇宙や地球の科学	1. 太陽系の天体と人間生活 2. 潮汐と人間生活 3. 太陽の放射エネルギー	太陽や星の地球上の日周運動や年周運動を、地球の自転運動と公転運動から理解させる。太陽の地球上の運行や月の満ち欠けの周期性が時や暦など人間生活に深く関わっていることを学習させる。太陽の活動による気象現象を学習し、様々な恵みと気象災害を理解させる。	10	プリント提出 授業態度 実験レポート提出 定期テスト
1 2	2節 身近な自然景観と自然災害	1. 身近な景観のなりたち 2. 地球内部のエネルギー 3. 自然の恵みと自然災害	身近な自然景観が風化作用、侵食作用、運搬作用・堆積作用などにより、長い時間の中で変化してきたことを理解させる。地震や火山分布がプレートの境界面で起きていることを理解させる。火山のメカニズムを学習し、火山災害を引き起こす現象を理解させる。地震のメカニズムを学習し、地域において将来おこる可能性のある地震のタイプや規模などを確認させる。	15	プリント提出 授業態度 実験レポート提出 定期テスト
3	6章 これからの科学と人間生	(課題研究等)	科学技術の成果と今後の課題について考察し、科学技術と人間生活との関わりについて探究させる。	3	

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ プリント、ワーク、ノートの提出。
- ・ 小テストの実施、実験レポートの提出。

8 担当者からの一言

私たちの身のまわりにはたくさんの科学現象があります。ふだん当たり前と感じていた現象が、実は法則があったり規則に従っていたりします。授業に集中することはもちろんですが、興味をもって学習に臨むことが何よりも大切です。板書をそのまま写すだけでなく、教科書を読み、自分でまとめてみましょう。インターネットや図書室(漫画や図鑑、専門書など)の利用もお勧めです。

(担当：上村、林)

教科(科目)	英語（英語コミュニケーションⅠ）	単位数	3単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	『VISTA English CommunicationⅠ』（三省堂）				
副教材等	エースクラウン英和辞典、VISTA Workbook（三省堂）、 『フレーズで英単語 3000』『フレーズで英単語 3000 WORKBOOKⅠ』（浜島書店）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する能力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探究し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。また、社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。
- (2) 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。また、社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。
- (3) 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。また、社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。

3 指導の重点

- ①中学校における基礎的な学習内容を踏まえ、言語活動に必要な4技能の向上を目指した活動を行う。
- ②場面に応じて、自分自身の考えや思いを適切に表現する能力を養う。
- ③コミュニケーション活動に必要な基礎的な単語を習得し、基本的な英文法を理解し活用する。
- ④教科書の題材を通して外国の文化に興味関心を持ち、英語習得に対する積極的な態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組（授業態度、学習活動への参加状況など） ・提出物（課題等）の内容 ・小テスト（単語テスト） ・定期テスト	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組（授業態度、学習活動への参加状況など） ・提出物（課題等）の内容 ・定期テスト	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組（授業態度、学習活動への参加状況など） ・提出物（ワークブック、ノート、課題等）の内容
	などから、評価します。	などから、評価します。	などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分に満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力をようする」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6 7	Get Ready Lesson1 Lesson2 Lesson3 Lesson4	中学の復習 Colors of Spring Dick Bruna 1 学期中間テスト Interesting Sports Pictogram 1 学期期末テスト	アルファベットの復習、辞書の使い方 ○Be 動詞、一般動詞の現在形 世界と日本の日常生活、風俗習慣 ○Be 動詞、一般動詞の過去形 芸術、社会/学校生活 ○現在進行形、過去進行形 スポーツ/学校生活・地域での活動 ○助動詞、動名詞 社会・日常生活・芸術/地域活動	4 8 8 1 8 8 1	定期テスト 単語テスト ワークシート ワークブック 授業態度
8 9 10 11 12	Lesson5 Lesson6 Lesson7 Lesson8	We Are Part of Nature Machu Picchu 2 学期中間テスト Artificial Intelligence Is There a Santa Clause? 2 学期期末テスト 文法プリント	○不定詞 自然・人間/インタビュー ○現在完了形 地理・歴史・伝統文化/地域活動 ○受け身 科学/学校生活・地域活動 ○関係代名詞 文化、発表、新聞記事 関係代名詞、関係副詞	8 8 1 8 8 1 4	定期テスト 単語テスト ワークシート ワークブック 授業態度
1 2 3	Lesson9 Lesson10	Kid's Guernica Ethical Fashion 学期末テスト 1 年のまとめ	○名詞を修飾する分詞、関係副詞 芸術（アート）、メール ○比較 SDG s、環境問題 文法のまとめ	12 12 1 4	定期テスト 単語テスト ワークシート ワークブック 授業態度

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ワークシート、ワークブックの提出。長期休業中課題の提出。
- ・小テスト(単語テスト)の実施。

8 担当者からの一言

英語を通して、日常的な話題や身近な話題について、自分の考えを整理し、コミュニケーションを積極的に図りましょう。定期テスト、発表、小テスト、提出物、授業への取り組みを総合的に評価しますので、日頃からコツコツと取り組むことが大切です。間違えを気にせずに、前向きに授業に取り組みましょう。

(担当： 佐藤・高原)

教科(科目)	保健体育（体育）	単位数	3単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	大修館書店『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店『現代高等保健体育ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探索し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようになるため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

3 指導の重点

各種の運動の合理的な実践を通して、

- ① 運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ② 体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育てる。
- ③ 生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
- ④ 基本的生活習慣と社会のルール、マナーの遵守ができる生徒の育成に努め、その定着を図る。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようになるため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身につけている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、提出物などの内容確認 ・各種目における実技試験の実施 ・記録をデータ化し、記録の伸び率を比較 ・試合中の様子を ICT 機器で記録し、振り返りを行う。 ・体力を数値化し科学的に分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、グループ学習への取り組みの観察 ・グループノートやワークシートなどの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、グループ学習への取り組みの観察 ・グループノートやワークシートなどの内容の確認 ・自己評価や相互評価等の状況を分析などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 ～ 5	体づくり運動	・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	・柔軟性を高める運動 ・持久力を高める運動 ・筋力を高める運動 ・調整力を高める運動	11	評価の観点の趣旨と評価方法踏まえて、各学習内容についてそれぞれ評価する。
5 6	選択①	・陸上競技 ・器械運動	・短距離走、走り幅跳び ・マット運動	1つ選択 18	
7 ～ 9	選択②	・球技ゴール型 ・球技ベースボール型 ・球技ネット型	・サッカー ・ソフトボール ・バレーボール	1つ選択 20	
9 10	陸上競技	・長距離走	・男子 3km・4km ・女子 2km・3km タイムトライアル	10	
10 ～ 12	選択③	・球技ゴール型 ・球技ネット型 ・球技ネット型 ・武道	・バスケットボール ・バレーボール ・バドミントン ・柔道	1つ選択 20	
12 1	体育理論	スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴	・スポーツの歴史的発展と変容 ・スポーツの技術、戦術、ルールの変化 ・オリンピックムーブメントとドーピング ・スポーツの経済的効果とスポーツ産業	6	
1 ～ 3	選択④	・球技ゴール型 ・球技ネット型 ・球技ネット型 ・ダンス	・バスケットボール ・バレーボール ・バドミントン ・現代的なリズムのダンス	1つ選択 ※③とは違う教材 20	

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・グループノートやワークシート等の提出があります。
- ・ケガなどの身体的理由により、運動が制限される生徒に対しては、レポート作成を指導します。

8 担当者からの一言

- ・運動が得意、不得意にかかわらず、体を動かすことの楽しさや心地よさを感じてください。
- ・仲間と共に運動することで、達成感や充実感を味わってください。
- ・年間を通じて自らの体力向上に努め、生涯にわたって健康を保持増進できる力を身につけましょう。
(担当： 古畑 豊和)

教科(科目)	保健体育(保健)	単位数	1 単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	大修館書店 現代高等保健体育				
副教材等	大修館書店 現代高等保健体育ノート				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探究し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。

(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。

(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

3 指導の重点

- ① 健康の大切さや体の発育・発達などの基礎的・基本的な事項が理解できるようにする。
- ② 健康的なライフスタイルを確立する。
- ③ 深刻化する健康・安全に関する新たな課題等に対応する。
- ④ 心の健康の保持増進に関する理解を図る。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身につけている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、タブレット教材の提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、提出物などの内容確認 ・振り返りの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表やグループワークへの取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・タブレット教材の提出状況などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 ～ 7	1 単元 現代社会と健康	健康の考え方	・健康の考え方と成り立ち ・私たちの健康のすがた	3	評価の観点の趣旨と評価方法踏まえて、各学習内容についてそれぞれ評価する。 定期テスト (知識の確認) ワークシート (記述の点検) 学習ノート (記述の確認) タブレット教材 (課題の解決) グループワーク、発表の様子 (行動の確認)
		生活習慣病などの予防と回復	・生活習慣病の予防と回復 ・がんの原因と予防 ・がんの治療と回復 ・運動と健康 ・食事と健康 ・睡眠・休養と健康	8	
7	定期テスト			1	
7 ～ 11	1 単元 現代社会と健康	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康	4	
		精神疾患の予防と回復	・精神疾患の特徴 ・精神疾患の予防 ・精神疾患からの回復	4	
		現代の感染症とその予防	・現代の感染症 ・感染症の予防 ・性感染症・エイズとその予防	4	
		健康の考え方	・健康に関する意志決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり	2	
12	定期テスト			1	
12 ～ 3	2 単元 安全な社会生活	安全な社会づくり	・事故の現状と発生要因 ・安全な社会の形成 ・交通における安全	4	
		応急手当	・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法	3	
2	定期テスト			1	

計 3 5 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・定期的に学習ノートを提出します。
- ・授業プリントやタブレット教材を提出します。

8 担当者からの一言

- ・現代社会における様々な健康課題に対して、自らの考えを持てるようにしましょう。
- ・授業で得た知識や課題解決の方法を実生活に役立てられる力を身につけてください。

(担当： 古畑 豊和)

教科(科目)	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	教育芸術社「Mousa 1」				
副教材等	教育芸術社「高校生のための音楽研究ノート」				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探索し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につける。
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

3 指導の重点

音楽のよさや美しさを感じ取り、感性を高め、中学校音楽科の学習を踏まえて、思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりし、音楽の文化的・歴史的背景を学び、個性をいかしながら他者とのコミュニケーションを図り演奏し、日本や諸外国の様々な音楽を学習することで、多様な観点から捉え、主体的にかかわりを持ち、生涯にわたって音楽を愛好していこうとする心情を育んでいきます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている音楽同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組んでいる。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・実技試験 ・ワークシートの確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・筆記試験 ・授業中の発言、発表などへの取り組みの観察 ・提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の学習活動の観察 ・ワークシートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	季節の歌		発声の方法を学び、詩の内容の表現を工夫して歌う。	8	学習活動の状況
5	世界諸民族の音楽 楽譜の読み方 テスト		アジアから諸外国の音楽や楽器とその演奏法を学び、曲を鑑賞する。 副教材を使用して楽譜の読み方書き方を学ぶ。	8	学習活動の状況 ワークシートの内容
6				8	筆記試験
7				2	実技試験
9	外国語で歌う		英語、イタリア語、ドイツ語の曲を原語で歌うことで詩と音楽の関係について学び、表現を工夫して歌う。	12	学習活動の状況 ワークシートの内容
10	リコーダー		正しい奏法を身につけ、工夫してより美しい音で演奏する。 副教材を使用して、音程、音階、和音、コードネームについて学ぶ。	8	実技試験 学習活動の状況
11	ソプラノリコーダー			8	ワークシートの内容
12	音楽の仕組み			8	学習活動の状況
	テスト			2	ワークシートの内容 実技試験
1	日本の歌		日本歌曲、ポピュラーソングをそれぞれに相応しい発声や表現を工夫する。	6	学習活動の状況
2	日本の伝統芸能 曲を作る		日本の伝統芸能を学び、楽曲を鑑賞する。 学んできたことを基に、作曲して発表する。	5	学習活動の状況 ワークシートの内容
3				3	学習活動の状況
				3	作品発表

計 70時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

ワークシートや感想文などを記入して提出（提出期限は厳守）します。

8 担当者からの一言

学習活動に積極的に取り組み、気持ちを音に込めて表現しましょう。また、日本の伝統芸能や諸外国の多種多様な音楽を楽しみましょう。

(担当： 坂口)

教科(科目)	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年（全コース）
使用教科書	光村図書「美術Ⅰ」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探索し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組み地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 指導の重点

表現活動や鑑賞活動を通して何を理解しているか、何ができるかという①「知識・技能」、また、理解していること、できることをどう使うか②「思考力・判断力・表現力」、さらに③「学に向かう人間性」の3つの観点を指導のポイントとする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・学習活動の取り組みの姿勢と発言 ・提出された作品や各種記述シート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・アイディア性・表現性・制作過程 ・材料活用性を提出された作品や各種記述シート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業態度 ・表現意欲 ・提出物頻度を提出された作品や各種記述シート などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 5	課題「描写と観察」	鉛筆・色鉛筆 画用紙等	・いつも何気なく目にしているものをスケッチし、見つめ直す。文房具や靴、自分の手などの対象を観察しながら、形態や材質、空間を捉えて描写する。また色鉛筆や水彩絵具で着色することで、色彩や陰、材質などの違いに気づく。	6	授業観察 制作過程 提出作品
6	課題「色彩基礎」	アクリルガッシュ 画用紙	・色彩の属性について学び、3原色と白黒のみの混色で4 5色を作ってみた後、目的に合わせた構成・配色ができるようにする。	6	授業観察 制作過程 提出作品
7	課題「色面の構成」	アクリルガッシュ 画用紙	・一定の条件による色面の分割や配色などの工夫により、変化と統一感のある美しい色面構成を目指す。色彩用語を学びながら、色彩の体系と機能について理解する。	10	授業観察 制作過程 提出作品
7	課題「作品鑑賞」	教科書	・教科書の各ページに掲載された作品図版を鑑賞する。作者名を知り、作者の表現の意図、作品サイズ、年代、国、地域、使用材料などの情報からより深く内容を読み解く。	3	発表の様子 ワークシート
9 10	課題「友人を描く」	アクリルガッシュ イラストボード	・一学期で学んだ素描と色彩の課題を応用し、身近な友人をモデルにして描く。愛情や思いを込めて描くことで対象の内面から滲み出る人間性を感じさせるような表現を目指す。	16	授業観察 制作過程 提出作品
11	文化祭展示				
11 12	課題「クラフト」	木製板 彫刻刀	・一枚の板から自分のイニシャルをデザインしたネームプレートを制作する。材質の特性や道具の使い方を理解し工夫しながら作業する。その過程で手作りの良さを味わい、生活と工芸の関わりについて理解を深める。また、伝統工芸への関心を持つ。	16	授業観察 制作過程 提出作品
1 2 3	課題「いろいろな表現方法」	紙素材他	・モダンテクニックによる遊び性のあるトレーニングを通して、絵画表現の多様性を楽しむ。	13	授業観察 制作過程 提出作品

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

各単元の作品は各学期の主な評価対象である。従って期間内に必ず提出すること。また課題への取り組み、制作過程における表現方法の工夫、材料活用性を大切にする。

8 担当者からの一言

・造形活動は、場と人、人と人を繋ぐ有効なメディアとして機能しています。活動をととした共通の関心とコミュニケーションを喚起していくことを意識しています。また、学校もひとつのコミュニティとして位置づけ、学校空間が活性化する展示方法を試みています。
・造形活動が新たな次元へと展開していく過程で、「いま・ここ」にそのつど自己更新していくダイナミズムを経験することで、多様な社会的場面に積極的に参加する意欲を喚起したいと思います。

(担当：金谷・福島)

教科(科目)	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年（全コース）
使用教科書	教育図書「書Ⅰ」「書Ⅰプライマリーブック」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探索し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をととして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をととして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

（２）書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

（３）主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 指導の重点

- ・基本的な用具・用材の扱いを理解し、自らの構想に基づき自己表現することを目指します。
- ・古典の美と技法を学び、創造的な表現をするための技能を身に付け表すことを目指します。
- ・鑑賞の学習では、漢字の各書体や仮名の生まれた背景や特徴、書の伝統と文化について理解し、書のよさや美しさを創造的に味わうことを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・習活動への参加状況や態度 ・各時間、提出を指示した作品 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・作品制作カードの記入状況 ・鑑賞カードの記入状況 ・各時間、提出を指示した作品 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習活動への参加状況や態度 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4月	◎書へのいざない 書写から書道へ		・中学校までの書写の学習を振り返り、書写と書道の共通点と相違点を理解する。 ・書道の学習に必要な用具、用材について理解する。 ・楷書の特徴を知る	4	授業観察
	◎漢字の書 ○楷書				
5 ～ 7月	孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 牛橛造像記 鄭義下碑 ○篆書 ○篆刻		・孔子廟堂碑、九成宮醴泉銘、雁塔聖教序、顔氏家廟碑、牛橛造像記、鄭義下碑、それぞれの鑑賞と臨書を通してその書美を学ぶ。 ・篆書の特徴を理解する。 ・落款の役割と篆刻の基本を知り、自分を表す印を制作する。	20	授業観察 提出作品 作品制作カード、鑑賞カードの記入状況
9 ～ 12月	漢字の書の創作 ○行書 蘭亭序 風信帖 ◎仮名の書 蓬萊切		・創作の手順に従い、高農祭で発表する楷書の書の作品制作をする。 ・作品を展示し、他者の作品を鑑賞する。 ・行書の特徴を知る。 ・蘭亭序、風信帖、それぞれの鑑賞と臨書を通してその書美を学ぶ ・仮名の書を知る。 ・連綿、平仮名、変体仮名を知り、表現の幅広さを感じ取る。 ・蓬萊切の鑑賞と臨書を通してその書美を学ぶ	30	授業観察 提出作品 作品制作カード、鑑賞カードの記入状況
1 ～ 3月	◎漢字仮名交じりの書の作品制作 自分らしい表現を求めて ◎生活の中の書		・漢字仮名交じりの書を知る。 ・漢字と仮名の調和を学ぶ。 ・創作の手順に従い、意図に基づいて創作する。 ・生活の中の書を心を込めて書く	16	授業観察 提出作品 作品制作カード、鑑賞カードの記入状況

計 70時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・各単元ごとに作品の提出がありあす。
- ・課題に応じて作品制作カード、鑑賞カードの提出があります。

8 担当者からの一言

- ・「何ができるようになったか」を大切にしたいと思います。授業中での進歩、単元をとおしての進歩、1年間の学習をとおしての進歩が感じられるような学習の取り組み方をしていきましょう。
- ・「書道Ⅰ」の学習をとおして、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになって欲しいと思います。
(担当： 丸山)

教科(科目)	農業（総合実習）	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	なし				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探索し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各学科・コースに関する体験的な学習を通して、農業の各分野における幅広い知識と技術を習得させ、地域社会で貢献できるよう主体的かつ協働的に取り組む態度を育てる。
- (2) 各コースの学習やガイダンスを通じて、希望進路を踏まえたコースを自ら選択できるようにする。
- (3) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決しようとする力を養わせ、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

3 指導の重点

- (1) 各コースの授業を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 将来を見据えた8つコースの特性を伝え、目標に向かって努力する力や自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 農業の幅広い基礎的な実習を通して、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む力を身につけさせる。
- (4) 農業クラブ活動を通じて総合的な農業の知識と技術を習得させる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各コースの学習を通じて知識や技能を身につけ、各コースの特性と重要性を理解している。	各コースの知識や技能を再確認し、自分の思いや考えを広げたり深めたりしながら、他者に伝わるように表現している。	実習や各種課題に対して、積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、協働的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上のことを踏まえ、 ①定期考査 ②単元ごとの小テスト などから、評価します。	以上のことを踏まえ、 ①定期考査およびその分析 ②レポートやノート、課題、提出物 などの記述の分析 などから、評価します。	以上のことを踏まえ、 ①レポートや課題、提出物 ②農業鑑定のテストや農業技術検定 資格試験の点数や勉強への取組状況 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	ガイダンス		コースを 知ろう	・1年間の流れやコース選択、各コースの特徴について知る。	2	・授業への取組 ・レポートや課題 ・農業鑑定テスト ・定期考査 (知識の確認)
6	8 コースのロー テーション学習 ① 農業クラブ活動		本校のコースや農業の授業を体験しよう	・各コースでの実習を体験し、学習した内容をレポートにまとめる。 ・農業鑑定競技や意見発表会を通して、農業の知識や技能を総合的に身につける。	16 2	
	定期テスト			・定期考査や小テスト等の学習で習熟度を確認する。	1	
7	8 コースのロー テーション学習 ②			・各コースでの実習を体験し、学習した内容をレポートにまとめる。	8	
10	ガイダンス コース別学習		コースに分かれて 基礎的な知識と技術	・コースに分かれて専門的な基礎知識や技能を習得し、2年生からのコースごとの学習へ繋げる。	1 10	・授業への取組 ・レポートや課題 ・定期考査
11	定期テスト		を身につけよう	・定期考査や小テスト等の学習で習熟度を確認する。	1	
	コース別学習				24	
	農業クラブ活動			・研究活動の発表を聞いて、考え感想文を作成する。	4	
2	定期テスト			・定期考査や小テスト等の学習で習熟度を確認する。	1	

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・毎時間の授業レポートがあります。メモを取り、レポートの見本を参考にしながら作成し、提出期限を守りましょう。
- ・4月に提出する意見文も評価に含まれます。
- ・定期テストは各学期に1回ずつとなります。1学期はローテーション学習の内容、2・3学期は各コース担当者より指示します。
- ・コース希望調査は、とても大事な書類です。提出期限を必ず守りましょう。

7 担当者からの一言

安全な授業を行うために正しい服装で参加し事故のないように努めてください。またよくまとまったレポートを書いたり、提出物を期限内に出したりすることは、高校3年間だけでなく、社会人としても必要なことです。大変なこともありますがんばりましょう。そして農業について総合的に学び、進路を興味関心あることを見つけ、進路を見据えながらコース選択に繋げてほしい。そして農業を楽しみましょう。

(担当：久保田、清水、樋浦、原、松田、中野、山田、鈴木)

教科(科目)	農業（農業と環境）	単位数	4単位	学年(コース)	1学年（農業科）
使用教科書	実教出版『農業と環境』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探索し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

農業の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 指導の重点

野菜と作物分野の学習を通して、農業の基礎的な知識・技術の習得と実践的な態度と能力を育成する。

- ① 水稻の栽培実習や各種野菜の栽培・管理・収穫を通じて、農業と食の大切さを伝える。
- ② 農業と環境との関わりを調査し、保全方法の基礎を伝える。
- ③ 調査・研究活動を行い、まとめる力、考察する力、発表する力を身につけさせる。
- ④ 農業クラブ活動を通じて農業学習の特質を実践的に学び重要性を伝える。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識と技術を身に付けている。	農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に考え、解決することができる。	農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組（授業態度、学習活動への参加状況など） ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、実習、作業での表現の観察 ・レポートやノート、課題、提出物などの内容の確認、提出状況 ・定期テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、各種観察や作業への取組の観察 ・レポートやノート、課題、提出物などの内容の確認 ・レポートやノート、課題、提出物などの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組（授業態度、学習活動への参加状況など） ・授業中の発言、各種観察や作業への取組の観察 ・レポートやノート、課題、提出物などの内容の確認 ・レポートやノート、課題、提出物などの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	《作物分野》 1 農業と環境の学び方		イネの栽培管理 生育調査	・学習の方法について理解する。 ・実際の作業や管理を体験する。 ・イネの生育調査の方法を知る。 ・収穫後、得たデータをもとに成果をまとめる。 ・イネの調査内容をまとめる。 ・調査や研究を行い、発表する力を身につける。 ・農業クラブ活動、F F J 検定のまとめ、審査する。	2	・授業への取組み（意欲・関心・態度など） ・作業に取り組む様子 ・レポートや課題をまとめる力 ・課題の提出 ・定期考査 から総合的に判断する。
7	2 農業と環境のプロジェクトの実際				20	
9	3 作物の特性と栽培のしくみ				12	
12	4 イネの栽培と利用				2	
1	5 学校農業クラブ活動のまとめ				4	
3	他 定期テスト		収量調査 食味調査 農業クラブ活動のまとめ			
作物分野合計		70 時間				
4	《野菜分野》 農業と環境を学ぶ		・教科書 ・タブレット端末	・F F J 環境調査 ・農業と環境の学び方 ・学校農業クラブ活動 ・ダイズの栽培 1. 栽培管理 2. 生育調査・観察 3. レポート作成	1	・授業への取組み ・作業に取り組む様子 ・レポートや課題をまとめる力 ・課題の提出 ・定期考査
5	栽培・飼育と				1	
8	環境のプロジェクト(1)				25	

9 11	栽培・飼育と 環境のプロジェクト(2)			・ダイコンの栽培 1. 栽培管理 2. 生育調査・観察 3. レポート作成	25	から総合的に判断 する。
12 3	栽培と飼育の基 礎		・教科書 ・タブレット 端末	・作物の特性と栽培のしくみ ・作物をとりまく環境とその管理	10 6	
野菜分野合計		70 時間				

作物 70 時間、野菜 70 時間 計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

《作物分野》 ・毎時に実験・実習に関するレポートの提出があります。 ・各考査時に実習手帳の提出があります。 ・大型連休時に農業専門用語の課題の提出があります。 ・夏季休業中に週 1 回の生育調査があります。併せて、レポートの提出があります。 ・校内農業鑑定競技の取組とノートの提出があります。 ・日本農業技術検定の取組と課題の提出があります。	《野菜分野》 ・毎時に実験・実習に関するレポート提出があります。 ・各考査時に授業プリント提出があります。 ・生育調査レポート提出があります。 ・F F J 環境調査提出があります。
---	---

8 担当者からの一言

「農業と環境」の関わりを学習すると共に、作物栽培を通して基礎知識や技術を身に付けてほしい。また、自ら進んで座学や作業・実習に参加し、考える力や観察、実験・実習を通して記録の整理や活用方法を身につけてほしい。

生育調査記録や実験・実習および観察レポートなどの提出物は必ず提出してください。

(担当：久保田、伊藤、五十嵐、小林、根岸)

教科(科目)	農業（農業と情報）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	実教出版『農業と情報』				
副教材等	実教出版『30時間でマスター Office2019』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探究し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 指導の重点

- ①情報モラル、情報セキュリティについて正しい知識を習得し情報化社会におけるマナーを身につけさせる。
- ②コンピュータやワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト、プログラミングに関する基礎知識を習得させる。
- ③課題演習を通じて、様々な状況に対応したソフトウェアや情報ツールを使いこなす技術を習得する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学校での学習や実習、産業現場での実習をとおして、農業に関する情報等をその目的や条件に合わせて活用できる知識と技術を体系的・系統的に理解している。	農業情報の活用について、環境への配慮や法令遵守などの職業人に求められる倫理観をもって思考を深め、科学的な根拠などに基づいて創造的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	農業情報を活用した事例をもとに、環境保全や農林業の持続的発展に果たす意義や役割に関心をもちながら、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・表やグラフの作成技術 ・レポートやワークシートなどの提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表 ・ワークシート、提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表 ・ワークシート、提出物 ・振り返りシートの記述の分析 ・班活動やペア活動への取り組みの様子 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5	第1章 私たちの生活と農業 の情報化 第2章 社会を支えるコンピ ュータ		・教科書 ・副教材 ・タブ レット端末	・日常生活と農業におけるコンピ ュータの役割を理解する。 ・コンピュータのしくみを理解す る。 ・情報モラルや情報セキュリティに ついて理解する。	2 2 2	・ペーパーテスト ・授業中の発言 ・レポートやワー クシート ・各種課題への取 り組み状況
6	第3章 コミュニケーション と情報デザイン 定期テスト		・教科書 ・副教材 ・タブ レット端末	・ワープロソフトを利用した文書作 成演習を行う。	12 1	・班活動やペア活 動への取り組み の様子
7 10	第5章 農業情報の分析と活 用		・P C	・表計算ソフトを利用した表計算お よびグラフ作成演習、データ整理 演習を行う。 ・統計処理の手法について、演習を 交えながら学習する。	23	これらを総合的に 判断し評価する。
11	第4章 スマート農業への展 望 定期テスト			・基礎的なプログラミング演習を行 う。	4 1	
12 1 3	第6章 農業学習と情報活用 定期テスト			・プレゼンテーションソフトの活用 演習を行う。 ・インターネットを活用し、スマー ト農業に関する調べ学習を行う。 ・各種ソフトウェアを用いて調べ学 習をまとめ、発表を行う。	14 4 4 1	

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業の振り返り課題
- ・レポート
- ・授業での作成物 等

※授業の進み具合により、その都度指示する。

8 担当者からの一言

- ・情報化が進んだ現代では、様々な情報があふれています。それらを活用していくためには、必要な情報を取捨選択し、正しい情報を見極める能力が必要です。情報モラル、情報セキュリティを正しく理解しましょう。
- ・パソコンを用いて様々な演習を行います。毎回の授業の積み重ねが重要になります。休まず継続して取り組むようにしましょう。

(担当：吉山・根岸)